

## 歴史を生かしたまちづくり相談室のご案内

当横浜歴史資産調査会では、横浜市と連携し、歴史的建造物の保全活用など歴史を生かしたまちづくりに取り組んでおります。

近年、歴史的建造物を取り巻く状況は大きく変化し、所有者の抱える悩みも複雑化・深刻化してきています。こうした状況を少しでも打開すべく、歴史的建造物所有者等を対象に、専門家や関係団体、行政が連携して具体的な対応策について提案していきたいと考え、まちづくり相談室を開設致しました。相談は無料で、どなたでもお申込みいただけますのでお気軽にどうぞ！

ご相談内容の送付は、公益社団法人横浜歴史資産調査会内「歴史を生かしたまちづくり相談室」係まで

相談方法、相談内容等については右段をご参照下さい。

送付先 〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号室

電話・FAX 045-651-1730

Eメール [yh-info@yokohama-heritage.or.jp](mailto:yh-info@yokohama-heritage.or.jp)

※電話は、毎週水曜日午前10時から午後3時まで

(年末・年始・祝日を除く)受け付けますが、その他は随時どうぞ。

### ヘリテイジにご寄付を！

ヨコハマヘリテイジでは、横浜をはじめとした国内の歴史的資産の保存活用に向けて、皆様のご寄付をお願いしております。各地に眠っている歴史的資産を地域の宝、日本の宝、世界の宝として、将来に渡り受け継いでいくために、皆様方のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

ご寄付を頂いた方には、個人の皆様には、所得税等の控除に使える免税証明書、法人の皆様には法人税の控除に使える税額控除証明書を発行致します。また、金額に応じた記念品を贈呈致します。

【1口～9口】(1,000円～9,000円)

・都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物第6版

【10口】(10,000円) 下記を1セット

・横浜●開港の舞臺-関内街並復元絵圖

(長さ:10メートルの絵巻物)絶版品60限定

・都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物第6版

・港-鉄道-ヨコハマ～鉄道がつなぐ横浜の歴史と文化～



### ヨコハマヘリテイジは免税団体です

歴史的資産の保存活用を推進するために、皆様のご寄付をお願いしております。ご寄付を頂いた方には、免税証明書を発行いたします。確定申告の際に控除となります。

【ヨコハマヘリテイジスタイル 2016 秋号】 平成 28 年 10 月 15 日 発行

公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマヘリテイジ) 〒231-0012 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405 号  
Tel : 045-651-1730 mail : [yh-info@yokohama-heritage.or.jp](mailto:yh-info@yokohama-heritage.or.jp)

1 相談方法については、ヨコハマヘリテイジのホームページに直接入力または相談シートに必要事項をご記入し、郵送、e-mail、ファクシミリ等でお申込み下さい。電話による相談も可 (毎週水曜日)

2 相談内容例としては、自宅は古いが、歴史的価値があるのかわからないので調べてほしいとか、建物は残したいが、相続が発生すると家族で持ち続けることが困難なので良い方法がないか?とか、歴史的建造物の改修を任せられる腕のいい職人を教えてほしいなど、歴史的建造物に関わるものであればどのようなことでも OK です。

3 ご相談の対応については、相談内容を専門家、ヘリテイジ職員、横浜市都市デザイン室職員等が問題を検討し、応じることにしています。必要に応じて現地確認や詳細のヒアリング、アドバイザー派遣等をする場合もあります。

### 【2016 年度 賛助会員の皆様】

いつもご支援をありがとうございます



お菓子を通じて横浜の歴史文化を継承します。株式会社 三陽物産

公益財団法人 はまぎん産業文化振興財団



相鉄企業株式会社

横浜市大倉山記念館

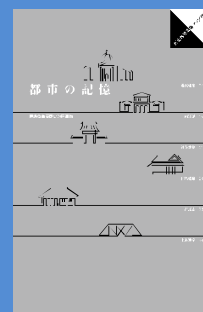
### ヨコハマヘリテイジ刊行物のご案内

お求めは下記連絡先の事務局までご一報ください。

A. 都市の記憶-横浜の主要歴史的建造物第6版 定価: 700 円 (税込)

B. 都市の記憶-横浜の土木遺産 定価: 1,200 円 (税込)

C. 港-鉄道-ヨコハマ 定価: 300 円 (税込)



A



B



C



公益社団法人 横浜歴史資産調査会 発行 日々の暮らしと横浜の歴史資産を一步近づける

2016 秋号

# ヨコハマヘリテイジスタイル

## 歴史を生かしたまちづくりセミナー Vol.39

### 石の記憶 が開催されました



会場となった横浜山手聖公会



山手聖公会 大谷石施工現場見学会の様子



パネルディスカッションの様子

2016年7月16日(土)13時30分から、横浜山手聖公会聖堂で、第39回歴史を生かしたまちづくりセミナー「石の記憶」が実施されました。セミナーの内容は3本立てで、初めに5月24日に開催された横浜山手聖公会大谷石施工現場見学会の報告がカサイアーキテクチュラルデザイン代表の笠井三義氏からあり、続いて「石の記憶～横浜の歴史的建造物と石」と題しての講演が横浜都市発展記念館主任調査研究員の青木祐介氏からありました。同氏からは、江戸末から近世、近代に至る段階での横浜における石にまつわる様々な事象を紹介しながら、いかに近代建築物の用材として石が重要な役割を果たしてきたか、またそれらが関東一円の地、特に栃木の房州、千葉の房総、相模などから持ち込まれ、いかなる用途に利用されてきたかを横浜に残る近代建築に照らし合わせながら語っていただいた。

そしてパネルディスカッションは、当調査会常務理事・事務局長の米山淳一氏によって進行され、パネリスト4方が紹介された。最初は宇都宮大学准教授・大谷石アカデミー学科指導長の安森亮雄氏、二番目は金谷美術館理事長の鈴木裕士氏、三番目はご自身で建築研究所を主宰されている木嶋房由記氏、そして講演していただいた青木祐介氏にもコメンテーターとして加わって進められました。安森氏からは、地元の大谷石とその取り組みについて、まず大谷石の性質からひととき、細工がしやすいことからくる様々な使われ方などを紹介、大谷石アカデミーを中心に今後の石の発展的な利用方策などへの取り組みがなされていることを語っていただきました。そして鈴木氏は、鋸山から切り出された房州石について、現在では採石がなされていないが、かつての繁栄の状況や現在のまちづくりに向けての取り組みなど、房州石を通じての活性化に努めていることを報告。そして木嶋氏からは、理念的な活動実践としての取り組みを「妄想と実践」と題して報告がありました。

ここで会場からの質問に答える形で進み、コメンテーターの青木氏から、報告内容から考えると石の生産地と消費地の関係を重視し交流を深めていくことこそが有意義ではないかと。そして最後にコーディネーターの米山氏が、経験値からいうと、歴史や生活文化を石が繋いできたことが言えるのではないかと、足下の石をもう一度見直して、石に光を当てて頂きたいと、締めくくってセミナーは終了しました。

横浜から山形県新庄へ  
鉄のシルクロードを遡って

鈴木智恵子 (エッセイスト 公益社団法人日本文芸家協会会員)

シルクロード・ネットワークの第2回目のフォーラムが山形県新庄市で開催された。

第1回の設立フォーラム2015の開催地はシルクの港横浜だった。その絹が輸出された横浜から生糸の産地の新庄まで遡ること、直線距離にして約372km。東北の絹の生まれ故郷を目指して、絹の道をひたすら遡る。とは言っても、こちらは鉄の道。山形新幹線「つばさ」で、何度も峠越えをし、終着駅の新庄へと辿り着いた。明治36年に新庄駅が開業してから、生糸は奥羽本線の鉄道貨物となって横浜まで運ばれたのだろう。その線路上を逆ルートで辿った。今でも遠いと感じる距離を、生糸は遙々と横浜までやって来た。横浜の人があまり気に止めないこの事実の体験に私は軽いショックを覚えた。

フォーラム1日目は、絹遺産や文化、まちづくりについての基調講演と基調報告、続いて鶴岡市、横手市、前橋市、日野市などの各地から活用の事例報告があった。横浜からは緑の協会が西洋館と絹文化の関わりについて報告した。地元新庄市からは新庄の近代化を支えた製糸業や蚕糸研究者などの話があり、会場は熱を帯びた。その熱気は夜の交流会へと引き継がれ、シルクロード・ネットワークの交流の輪はさらに広がり、深まりを見せた。ちょうど季節とあって卓上には歓迎のサクランボがたくさん盛られている。その艶やかで美しい姿は、山尾市長はじめ新庄市の関係者の方々への熱意の象徴のようにも思えた。



プレゼンする鈴木智恵子さん

翌日の見学会は、新庄駅赤煉瓦機関庫から始まり、朝から夕方まで一日かけて案内して頂いた。お目当てのシルク遺産のみならず、新庄城址「最上公園」や新庄ふるさと歴史センター、国の重要文化財旧矢作家住宅などの古い歴史も巡った実り多い一日だった。

中でも圧巻はエコロジーガーデン「原蚕の杜」である。昭和11年に事業が開始された旧蚕糸試験場新庄支場は、そのスケールといい、庁舎や蚕室などの当時の施設がそのまま残された景観といい、見る者を圧倒して魅了する。期待以上のシルク遺産であった。大きな桑の木の並木道、広大な敷地に点在する赤い屋根がのった白い建物たち。その牧歌的な風景は新庄の透明感ある空気の中で輝きを放っていた。蚕糸研究の歴史を紹介する場だが、宮沢賢治の童話の舞台になりそうな風景にすっかり心を奪われてしまった。「原蚕の杜」に再来の約束を告げ、鉄のシルクロードに乗って、一路横浜を目指した。



取り壊された三井物産横浜支店倉庫



新庄市蚕糸試験場「原蚕の杜」(国登録有形文化財)

シルクロード・ネットワーク  
新庄フォーラム 2016 雑感

堀内貴雄 (公益社団法人横浜市緑の協会)

「今後のこともあるから、他団体との交流を広げる気持ちで、行って来てよ。当日は座っているだけで良いからさ」。米山常務と親交を持つ上司から依頼され、「はあ、そうですか」と参加を引き受けた本フォーラム。

それでは勉強のつもりで、と気楽な気分当日会場に乗り込んでみると、受付にいた米山常務から、「横浜の代表として事例発表してくれよな、鈴木智恵子さんは相模原だからさ、頼むよ」と突然のご指名。

青天の霹靂に、しばし呆然。時計に目をやると、発表時間まで3時間弱…。それまでのお気楽気分はどこへやら、「サプライズにも程があるだろ」と内心毒づきながら、会場内で原稿作成を開始。興味深い講演も話半分に突貫工事で原稿をまとめ上げると、ぶっつけ本番で登壇、資料もなく身振り手振りで横浜山手西洋館の活用事例を報告した。

後日上司にやんわりご苦情申し上げると、「うちは出席だけで事例報告しないよって断ったんだけどな～。あつはつは」とあつけらん。連絡の行き違いということがなんとなくわかったが、事前に事例報告があることを知っていれば、資料なども交え、もう少し違った報告もできたのに…と、個人的にはやや心残りなフォーラムとなった。

さて、本フォーラムの雑感ということで、私の目から見たフォーラムの印象も多少記したい。

少子高齢化や外国人観光客増を背景に、多くの地域が観光を通じて「まちおこし」を模索する中、本フォーラムでは、参加者のみなさんが「おらが町の絹遺産」を起爆剤として「まちおこし」に取り組まれていることが、よく認識できた。富岡製糸場の世界遺産登録もあり、「絹遺産」がフォーカスされるなか、時流を捉えた上手いアプローチであるなあとも感心した。

翻ってわが横浜山手西洋館はどうだろうか。私見ではあるが、「絹遺産」など、館の持つ歴史的な意義を伝えるよりも、「アンティークな雰囲気と小洒落た文化イベントに出会える館」のイメージを、館長の感性に任せて強く前面に打ち出すことで、同世代の女性の関心を掴み、今の「年間来館者100万人」を実現してきたように感じる。

集客の観点で考えれば、その手法は間違いではないと思う。「利用者ニーズをよりの確に捉えている」とも言えるだろう。しかし、今後横浜山手西洋館が「管理の質的向上＝管理の奥深さ」を出すためには、館の持つ歴史的意義を前面に出す取り組みも、強く打ち出していく必要があるように感じた。

奇しくも本フォーラムで、米山常務から、横浜山手西洋館の管理について「中高年向けのイベントばかりじゃなく、歴史も大事にしてよ」と叱咤激励を受けた。これはそういう意味なのだと思う。



プレゼンする堀内さん



緑の協会が管理運営する山手西洋館「ペーリックホール」



「原蚕の杜」の現代アート展示

※ 本フォーラムは平成28年6月25・26日の両日、山形県新庄市にて開催。

主題は「原蚕の杜」から絹産業遺産の再生・活用・継承を学ぶ。

主催：公益社団法人横浜歴史資産調査会 & NPO 法人街・建築・文化再生集団

後援：山形県、新庄市、新庄市教育委員会、大日本蚕糸会